

2012.3.15



# 医療教育開発センター ニューズレター

徳島大学大学院  
ヘルスバイオサイエンス研究部  
医療教育開発センター

## 1 巻頭言

## 2 取組紹介

- 特集Ⅰ  
IPE (多職種連携教育)
- 特集Ⅱ  
大学院教育支援
- 文部科学省  
組織的な大学院教育改革推進プログラム (大学院GP)  
「医療系クラスターによる組織的な大学院教育」
- 2011 Tokushima Bioscience Retreat 報告
- 文部科学省  
頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム  
「疾患ニュートリウムを基盤とした加齢による循環器障害研究の国際ネットワーク構築」

## 3 報告

- 模擬患者参加教育
- スキルス・ラボ利用実績
- 平成23年度活動報告

## 1 巻頭言



### “3年間を振り返って”

医療教育開発センター長 赤池 雅史

平成21年4月にセンター長を拝命し、丸3年が過ぎようとしております。この間、センター教職員とともに、皆様のご指導・ご支援に支えられながら、センター運営を行ってまいりました。今回のニューズレター記事でも一部取り上げていますが、振り返りを兼ね、その概要をご紹介します。

大学院教育については、平成21年度採択の組織的な大学院教育改革推進プログラム「医療系クラスターによる組織的な大学院教育」(文部科学省)を基盤として、大学院教育クラスターの運営支援を行ってきました。現在、6つのクラスターが形成され、コアセミナーやミニリトリートによって、組織横断的な大学院生指導体制が構築されており、ヘルスバイオサイエンス研究部の実質化に貢献できたと考えております。さらに、本事業をきっかけに新たに10件の共同研究プロジェクトが誕生しており、特に、心・血管クラスターを拠点に申請した頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム「疾患ニュートリウムを基盤とした加齢による循環器障害研究の国際ネットワーク構築」(文部科学省)が採択される等、研究面への波及効果も生まれています。教育クラスター運営に対する文部科学省からの助成は平成23年度で終了となるため、今後はこの制度をいかに定着・発展させていくかが課題であると考えております。

職種間連携教育については、蔵本地区1年生を対象として9月末に実施してきた「チーム医療入門ワークショップ」が年々充実し、今年度は「医療人を目指す者として東日本大震災から学ぶこと」をテーマにすべての学部学科からご参加いただきました。一方、海外医療支援活動、医療コミュニケーション、医療安全等の共通性の高いテーマを取り上げ、それぞれの分野でご活躍されている方々をお招きして、講演会・講習会を開催してきました。薬学部と医学科の合同臨床実習の取り組みも始まっています。これらが単発で終わってしまうのではなく、「医療共通教育」として継続的かつ体系的な教育プログラムにいかにより昇華していくかが重要であると考えております。

スキルスラボについては、シミュレーション教育指導者講習会を毎年開催し、その受講者がそれぞれの部署で、独自のシミュレーショントレーニングを実施する等、学部教育に留まらず学内全体での広がりをみせています。さらには海外留学生による利用も新たに開始しています。医師の専門研修プログラムである「四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成」との連携もすっきり定着しました。この結果、平成23年度の利用件数は過去最高となりました。次年度は、バーチャルリアリティシミュレーターの設置やウェットラボ機能の整備が予定されており、これらのハード面の充実とともに、学部教育と連続したキャリア形成教育、基礎と臨床の融合学習、ならびに職種間連携教育の拠点として、ソフト面での充実をさらにはかりたいと思います。また、実習・試験での模擬患者参加については、医学科、歯学科に加えて、保健学科放射線技術科学専攻や薬学部においても徳島大学で養成した模擬患者さんがボランティアとして協力するようになりました。新人養成プログラムも新たに開発・実施されており、優れた模擬患者の育成を通じて、各学部学科の教育に貢献したいと思っております。

医療教育開発センターは蔵本地区における医療系の教育連携を目的とした組織です。チーム医療では患者を中心として多職種が連携するように、医療系教育においては学習者を中心として組織横断的な連携をはかり、その連携によって新たな価値を生み出すことができるように努力してまいりたいと存じます。今後とも、皆様のご指導・ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 2 取組紹介

# 特集 I

## ■ IPE (多職種連携教育)

### ● 第1回医療教育講演会開催

「視点を変えたら ～スーダンと東日本大震災の経験から～」

日時:平成23年10月26日(水) 18:00-20:00

場所:長井記念ホール

参加人数:288名

NPO法人ロシナンテス理事長 川原尚行先生による講演会が開催されました。スーダンと東日本大震災の被災地で、一人の医師として、そしてひとりの人間として、人々と協力しながら活動される川原先生の実体験にもとづいた講演から、医療人を目指す学生たちは大きな感銘を受けた様でした。



講演する川原先生



講演後、質問や握手を求める学生

### ● 第5回「チーム医療入門」～蔵本地区1年生合同WS～

「医療人を目指すものとして東日本大震災から学ぶこと」

日時:平成23年9月30日(金) 13:00-17:00

場所:大塚講堂、各教室

参加人数:415名(全1年生の92%)

医療人を目指す学生が相互理解を深め、将来ともに円滑なチーム医療を行える基盤形成を目的として、蔵本地区の1年生全員を対象として行われています。今年は東日本大震災のボランティア活動に参加した教員、学生の講演をもとに、KJ法を用いてグループワークを行いました。



大塚講堂での講演



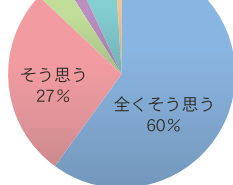
グループワーク



完成したプロダクト

Q.学部横断的なチーム医療教育は必要だと思いますか？

全くそう思わない 7%  
 そう思わない 2%  
 どちらともいえない 4%  
 無回答 0%  
 そう思う 27%  
 全くそう思う 60%



終了後のアンケートでは8割以上の学生が連携教育の必要性を感じています。

### ● 多職種連携(IPE)講演会「多職種連携:見られあう職場」

日時:平成23年12月9日(金) 18:00-20:00

場所:青藍講堂

参加人数:58名

東京慈恵会医科大学教育センター長 福島統教授をお招きし、医療現場、特に医療安全の視点から、“聴く耳を持つ”多職種連携とその教育についてご講演いただきました。



講演する福島先生



会場からの質問

### ● 第3回Simulation 医療教育 Workshop in 徳島

「実践シミュレーション道場～シナリオ作りの奥義～」

日時:平成23年11月12日(土) 9:00-17:10

場所:徳島大学スキルス・ラボ

参加人数:45名

慶應大学医療教育統括センター 安井清孝先生を迎えて3回目のシミュレーションワークショップが開催されました。ここで学んだ手法をいかした学内の講習会も開催されています。



講演する安井先生

### ● 「How to 医療コミュニケーション教育 ～教員の役割、模擬患者の役割～」

日時:平成23年12月3日(土) 9:00-12:00

場所:医学部第3、第4会議室

参加人数:37名

岐阜大学 医学教育開発研究センターの藤崎和彦教授をお招きし、医療コミュニケーション教育について学びました。コミュニケーションについて学ぶことは対患者さんのみならず、医療現場においても大変有効なことです。



講演する藤崎先生



医学科5年生によるセッション

# 特集Ⅱ

## ■大学院教育支援

### ◆文部科学省平成21年度採択(平成21-23年度実施)組織的な大学院教育改革推進プログラム「医療系クラスターによる組織的大学院教育」

文部科学省・組織的な大学院教育改革プログラム「医療系クラスターによる組織的大学院教育」が平成24年3月をもって終了します。実施期間中、医歯薬栄保の各教育部・ゲノム・酵素・病院から89名の教員がクラスター教員として関わり、3年間でのべ100名の大学院生がRAとして採用されました。教育クラスターを構成する先生方それぞれのご研究の最先端講義として開催されたコアセミナーは212回を数え、本事業および学長裁量経費補助により開催されたクラスター毎のミニリトリートには、3年間で473名の教職員・大学院生・学部学生が参加しました。組織を超えて開催されるコアセミナーや日常から切り離されたリゾート空間での活動により、指導教員・若手研究者・大学院生の研究交流の促進が期待されています。

この3年間の実践により、学部・学科の垣根を越えて築かれたつながりを土台として、次年度以降も活動が継続される予定です。

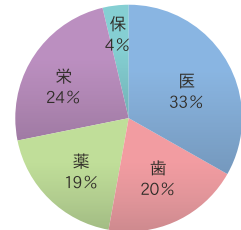


●クラスターコアセミナー

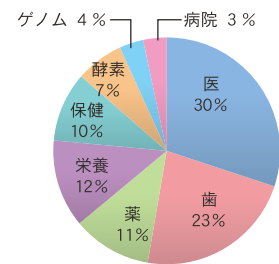


●各クラスターによるミニリトリート

●採用されたRA大学院生の内訳



●クラスター教員の内訳



### ◆2011 Tokushima Bioscience Retreat 報告



研究発表会

開催日：平成23年9月15日(木)～17日(土)  
場 所：香川県 リゾートホテルオリビアン小豆島  
参加者：蔵本地区5教育部より28名

今年度も学長裁量経費の支援を得て、第7回目となる大学院リトリートが開催されました。研究発表会では、参加大学院生の司会進行のもとで、非常に質の高い内容の発表と活気に満ちた討論が行われました。懇親会は、所属教育部や分野を越えて、院生や教員、特別講師が語り合う、貴重な交流の場となりました。

特別講演では、本学疾患ゲノム研究センター長の高濱洋介先生をお招きし、「胸腺の機能」をテーマに貴重なお話を伺うことができました。

また、若手研究者奨励賞に3名、特別賞に1名が選ばれました。

#### ●若手研究者奨励賞

小林真左子さん(口腔科学教育部 口腔外科学分野 博士課程3年)  
山本 純さん(薬科学教育部 薬品合成化学分野 博士後期課程1年)  
中橋 乙起さん(栄養生命科学教育部 臨床栄養学分野 博士後期課程1年)

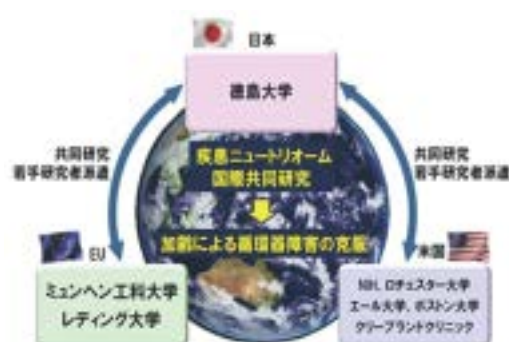
#### ●特別賞

今西 正樹さん(医科学教育部 薬理学分野 博士課程1年)



若手研究者奨励賞表彰式

### ◆文部科学省平成23年度採択 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム「疾患ニュートリオームを基盤とした加齢による循環器障害研究の国際ネットワーク構築」



この度、文部科学省若手研究者戦略的海外派遣事業費補助金である頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム「疾患ニュートリオームを基盤とした加齢による循環器障害研究の国際ネットワーク構築」(平成23～25年度、申請総額76,670千円)が採択されました。本事業は玉置俊晃大学院ヘルスバイサイエンス研究部長を主担当研究者として、組織的な大学院教育改革推進プログラム「医療系クラスターによる組織的大学院教育」(平成21～23年度)により構築された心・血管クラスターを拠点に、医療教育開発センターの支援により、若手研究者の海外派遣に基づく国際共同研究を展開するものです。本事業により、栄養・機能的食品と疾患の科学的連関を解明する新たな研究概念である「疾患ニュートリオーム」の国際共同研究体制の確立と加齢による循環器障害の克服に向けて 新たな視点・手法で取り組むことができるグローバルリーダーの育成が期待されます。

# 3 報告

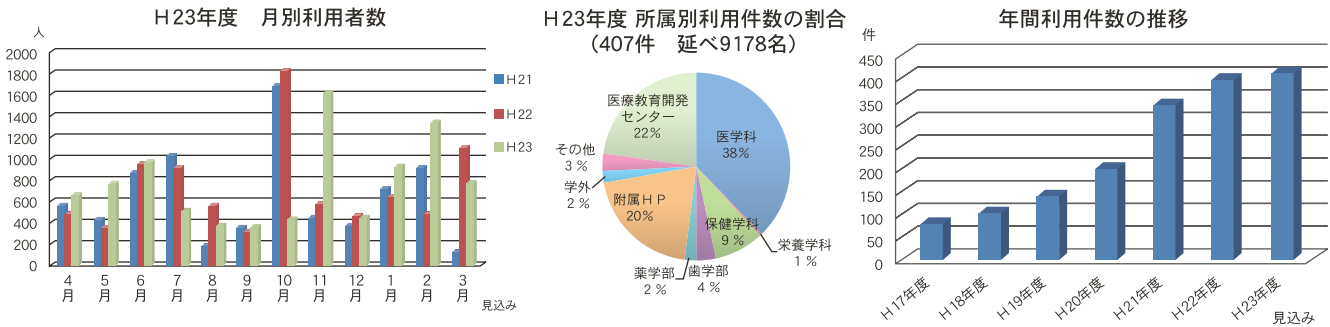
## ■ 模擬患者参加教育

医療系学生のコミュニケーション教育に患者役として現在13名(男性4名、女性9名)の模擬患者さんが活動しています。

平成23年度は、医学部医学科、保健学科放射線科学専攻、歯学部、薬学部の講義や実習、OSCE、実技試験の患者役として協力しています。教員や模擬患者さんが医療コミュニケーションについて理解を深める機会として、12月には講習会を開催しました。



## ■ スキルス・ラボ利用実績



## ■ 平成23年度活動報告 - H23年4月~H24年3月 -

### ■ 大学院教育支援

**【大学院GP】** クラスタコアセミナー(5~3月) HBS5研究部月例交流セミナー(第19~2回) クラスタ・ミニリトリート(11~1月) 外部評価委員会(12月9日) クラスタ大学院生研究発表会(2月7日) クラスタ責任者会議(2月14日) スタンフォード大学教員招聘(2月)

**【e-learning運営】** e-learning対象科目の講義撮影・コンテンツ作成(前期・後期) 2011サマープログラム HBSコース講義撮影・コンテンツ作成(7月)

**【リトリート】** 2011 Tokushima Bioscience Retreat (9月15~17日)

**【英語特別コース】** 統合医療学際教育英語プログラム/国際環境・予防医学英語特別コース運営委員会(4回)

**【共通科目】** 教育部共通カリキュラム科目授業時間割編成会議(1回)

**【授業評価システム】** 授業評価アンケート実施支援(前期・後期) 授業評価システム検討WG(3回)

### ■ 職種間連携教育(PE)

**【学生教育】** 第5回「チーム医療入門」蔵本地区1年生WS(9月30日)

第1回医療教育講演会「視点を変えたらースダグと東日本大震災の経験から」(10月26日)

IPE講演会「多職種連携:見られあう職場」(12月9日) 全学FD大学教育カンファレンスin徳島発表(1月20日)

第244回徳島医学会学術集会発表(2月)

**【会議】** IPE推進WG(2回)

### ■ シミュレーション教育

**【スキルス・ラボ】** 第26~46回CV個別講習会(4月~3月) 第17~20回きりん(基本的臨床技能セミナー) 徳島県立中央病院看護部実務研修(4月)

平成23年度研修医教育講座第1~2回腰椎穿刺講習会(卒業臨床研修センター主催)

医学部OSCEのためのオープンスキルス・ラボ(6年生:6月 4年生:2月) モンゴル健康科学大学スキルス・ラボ研修(5月:7名)

ソウル国立大学医学部学生スキルス・ラボ研修(7月:6名)

高校生医学体験スキルス・ラボ研修【徳島県高校生(76名)徳島県立脇町高校(18名)徳島市立高校(48名)】ふれあい看護体験高校生スキルス・ラボ見学(50名)

看護職員復職研修 主催:(社)徳島県看護協会(8月)外科模擬手術体験~徳島キッズセミナー共催(11月) 第3回Simulation医療教育WS in徳島(11月)

蔵本地区学生支援BLS講習会(1月) ダ・ヴィンチ手術3Dライブサージェリー共催(2月) 香川県立歯科衛生師学校スキルス・ラボ研修(3月:46名)

イチロー&ラングセミナー(4年生:2月 6回)シミュレーター展示説明会 他

**【模擬患者(SP)養成】** 活動(101件) のべ569人)

内訳:医学部(58件) 歯学部(8件) 薬学部(7件) 保健学科・放射線技術科学専攻(5件) 定例会(&レクチャー)(7件)

新人養成プログラム(14件) 研修会派遣(2件)

**【会議】** スキルス・ラボ運営協議会(3回)

### ■ 視察等受入

中国南通医学院附属医院分院(4月) 京都科学(株)、徳島健祥会福祉専門学校校長、熊本大学医学部長(6月) 加古川東市民病院(7月)

徳島文理大学看護学科(11月) 文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室長他(3回)

### ■ 会議

当センター運営委員会/教務委員会(6回)

### ● 学会・研究会活動 ●

全学FD大学教育カンファレンス in 徳島(1月20日)

● 医療系学部における多職種連携教育(IPE)の取り組み

~蔵本キャンパスすべての1年生による合同ワークショップ~

岩田 貴<sup>1)</sup>、長宗雅美<sup>1)</sup>、辻 暁子<sup>1)</sup>、福富美紀<sup>1)</sup>、石田加寿子<sup>1)</sup>、藤本晶子<sup>1)</sup>、赤池雅史<sup>1)</sup>

徳島大学大学院HBS研究部医療教育開発センター<sup>1)</sup>

第244回徳島医学会学術集会(2月12日)

● ネット教育支援およびスキルスラボのシミュレーターを駆使した医療トレーニングの有用性

岩田 貴<sup>1)</sup>、赤池雅史<sup>1)</sup>、長宗雅美<sup>1)</sup>、福富美紀<sup>1)</sup>、島田光生<sup>2)</sup>

徳島大学大学院HBS研究部医療教育開発センター<sup>1)</sup> 外科学<sup>2)</sup>

### ● 論文 ●

Akaike M, Fukutomi M, Nagamune M, Fujimoto A, Tsuji A, Ishida K, Iwata T. Simulation-based Medical Education in Clinical Skills Laboratory. J Med Invest 59(1,2): 28-35, 2012.

### ● 医療教育miniコラム ●

「ノンテクニカルスキル」

個々の専門的知識・技術などの「テクニカルスキル」とは異なり、チームワーク、コミュニケーション、状況把握、決断、個人の限界(危機的・疲労状況)の管理・対応等、人に焦点をあてた認知的・社会的能力である。医療事故の半数以上がノンテクニカルスキルに原因があるといわれている。このスキルを身に付けることによって、テクニカルスキルを補完し、臨床現場における人為的エラーの回避、ならびにチーム全体のパフォーマンスの向上が期待できるため、近年、トレーニング方法の開発が進められている。